

EEBE[®]算定ガイドライン

中間法人 クラブ エコファクチュア[®]

もくじ

1.	EEBE®算定ガイドラインの目的	2
1. 1.	EEBE®の定義	2
1. 2.	EEBE®の算定目的	2
1. 3.	EEBE®算定ガイドラインの目的	2
2.	EEBE®算定ガイドラインの適用範囲	3
3.	EEBE®算定手順の概要	3
4.	負荷削減量の算定	4
4. 1.	負荷削減量の算定(環境)	4
4. 2.	負荷削減量の算定(社会)	4
5.	社会環境価値単価の設定	5
6.	EEBE®算定結果の表示	5
7.	情報開示の基準	5
8.	透明性と信頼性の確保	6
付表 1	付属文書	7
付表 2	用語の定義	7

改訂履歴

区分	改訂 No	日付	適用
制定		2006年10月17日	クラブ エコファクチュア® ワーキング・グループ会合にて確定
発行		2006年11月1日	クラブ エコファクチュア® ワーキング・グループ会合にて確定
改訂			

1. EEBE®算定ガイドラインの目的

1.1. EEBE®の定義

EEBE®は、企業等の事業活動やそれにより生じた製品・サービスの社会・環境貢献度を外部経済効果として評価する貨幣単位の指標である。

これまでステークホルダーは、企業等の事業活動の収益性ないし経済的貢献度は財務諸表によって把握してきたが、社会・環境貢献度ないし社会・環境的価値を包括的に把握するための手法は存在しないため、企業等の持続可能性を総合的に評価することができなかった。EEBE®手法は、財務諸表には表れない企業等の事業活動の社会・環境的価値を貨幣単位で評価することにより、企業等の持続可能性をステークホルダーに開示するとともに経営の意思決定にも適用できる。

大量生産・大量消費・大量廃棄型の20世紀の事業活動と決別した、21世紀のあるべき事業活動を意味するエコファクチュア®に対し、EEBE®は、エコファクチュア®の構成要素であるビジネス・プロセスの社会・環境貢献度あるいは社会・環境的価値を評価し、循環型社会の構築や、持続可能な社会経済システム構築の基礎となる、持続可能な事業活動を促進するための手法ともいえる。

1.2. EEBE®の算定目的

企業等は、自らの事業活動や、販売/提供する製品・サービスについてEEBE®を算定することにより、社会・環境的価値を定量的に把握し開示する。

また、企業等は、自らの事業活動や、販売/提供する製品・サービスについてEEBE®を算定することにより、自らの社会・環境的価値を高めていくことに利用する。

EEBE®算定の究極の目的は、財務諸表の情報とあわせ、企業等の事業活動の価値を総合的に把握あるいは開示し、経営の改善やステークホルダーによる価値判断に資することである。

1.3. EEBE®算定ガイドラインの目的

この算定ガイドラインの目的は、EEBE®の算定方法を広く国際社会に開示し、企業等の事業活動の社会・環境的価値を評価する共通のツールとして、EEBE®の普及を図り、21世紀のあるべき事業活動の促進を図ることである。

また、この算定ガイドラインの目的は、EEBE®の算定結果の透明性と信頼性を確保し、ステークホルダーの判断をより確かなものとするすることである。

EEBE®の算定は、本算定ガイドラインの本文のほか、付表1に示す付属文書に準拠して実施することが必要である。

2. EEBE®算定ガイドラインの適用範囲

EEBE®は、製造プロセス、ビジネスモデル、プロジェクト、製品・サービスの提供等、あらゆるビジネス・プロセスの評価に適用できる。

EEBE®手法では、ビジネス・プロセスのうち、エコファクタリング・プロセスの基準を満たすものについて、一定の手順により EEBE®の算定を行う。

さらに、EEBE®は、数多くのエコファクタリング・プロセスの社会・環境的価値の集積として、企業全体の社会・環境貢献度を把握することにも適用できる。

われわれは、今後、EEBE®が政策目的に利用されたり、市場メカニズムを利用した環境と経済の両立に係る経済的手法に利用されたりすることを期待しているが、それまでには長い道のりがあることを認識している。EEBE®がより高度の目的に適用されるにしたがって、算定ガイドラインについてもより精緻なものが必要となる。

3. EEBE®算定手順の概要

EEBE®の算定は、原則として以下の手順で実施する。

製造プロセス、ビジネスモデル、プロジェクト、製品・サービスの提供等、EEBE®の算定対象とするビジネス・プロセスを特定し、そのビジネス・プロセスがエコファクタリング・プロセスであることの根拠を明確にする。

EEBE®の算定対象とするエコファクタリング・プロセスに対し、EEBE®の算定期間を設定し、その設定が適切である根拠を明確にする。

EEBE®の算定対象とするエコファクタリング・プロセスに対し、適用可能なレファレンス・プロセスの代替案を選定し、最も適切なものをレファレンス・プロセスとして設定するとともに、その設定が適切である根拠を明確にする。

エコファクタリング・プロセスおよびレファレンス・プロセスのそれぞれについて、EEBE®の算定境界（バウンダリー）を明確にし、そのバウンダリーの設定が適切である根拠を明確にする。

設定したバウンダリー内部において発生する環境的側面の負荷項目、および社会的側面の負荷項目を明確にし、さらに重要な負荷項目を網羅的に測定項目としてデータの収集・集計を実施するとともに、情報の信頼性の根拠を明確にする。

測定項目とした負荷項目のそれぞれについて、社会環境価値単価を設定するとともに、その設定が適切である根拠を明確にする。

設定したバウンダリーの内部において、エコファクタリング・プロセスから発生する負荷量と、レファレンス・プロセスから発生する負荷量との差分を

負荷項目ごとに求め、対応する社会環境価値単価を乗じて個別項目ごとのEEBE®を求め、全項目を集計することにより、全体のEEBE®を求める。

上記 項目以降に示したように、バウンダリーは、エコファクチュアリング・プロセスおよびレファレンス・プロセスの各々に対し、EEBE®の算定者が、その内部において負荷を認識し測定値を収集する領域である。

また、バウンダリーは、環境的側面の場合、その内部において資源・エネルギーの投入と環境負荷物質や廃棄物等の排出を認識し測定する領域であり、社会的側面の場合、その内部において社会的損失の要因に係る指標を認識し測定する領域である。

なお、EEBE®の算定者は、設定したバウンダリーの内部において、評価対象のビジネス・プロセスに、社会・環境的にネガティブな要素がある場合、この要素を確実に評価しなければならない。

さらに、EEBE®算定手順のなかでとくに重要な、負荷削減量の算定および社会環境価値の設定について、以降において詳述する。

4. 負荷削減量の算定

4.1. 負荷削減量の算定(環境)

環境側面における負荷削減量の算定にあたっては、レファレンス・プロセスにおける負荷量を算定し、また、エコファクチュアリング・プロセスにおける負荷量を算定する。次に、負荷項目ごとの負荷量差分の集計を行い、レファレンス・プロセスを基準とするエコファクチュアリング・プロセスによる負荷削減量を求める。

なお、レファレンス・プロセスおよびエコファクチュアリング・プロセスにおける網羅的な負荷量の算定を行うために、インプット - アウトプット図(資源・エネルギー投入量と環境負荷物質および廃棄物等の排出量を示した図)を利用することができる。

ここで、環境における負荷量とは、環境に影響を及ぼすあらゆる項目を意味し、インプット - アウトプット図は、EEBE®の評価項目とした重要な負荷項目を網羅する必要がある。

4.2. 負荷削減量の算定(社会)

社会側面における負荷削減量の算定にあたっては、環境側面と同様に、レファレンス・プロセスにおける負荷量を算定する。次に、エコファクチュアリング・プロセスにおける負荷量を算定し、負荷項目ごとの負荷量差分の集計を行い、レファレンス・

プロセスを基準とするエコファクチュアリング・プロセスによる負荷削減量を求める。一般に、社会側面における負荷量とは、当該項目についての社会的損失の指標を意味する。

社会側面においては、環境側面のインプット - アウトプット図のような概念は、現時点において存在せず、負荷項目それぞれについて逐一検討を加え、重要な負荷項目を網羅する必要がある。

5. 社会環境価値単価の設定

社会側面の社会環境価値単価は、社会側面の負荷単位量に対する社会的損失金額を設定する。また、環境側面の社会環境価値単価は、環境負荷に起因する環境影響による、環境経済学の理論などを基礎とする単価を適用する。ただし、他の理論に基づく社会環境価値単価の使用を妨げない。

現在までの検討の結果、市場経済の領域における単価（排出権取引金額、廃棄物処理コスト、ロンドン金属取引所価格；LME、エネルギー原価など）を適用しているが、環境経済学、社会福祉経済学、公共経済学などに立脚したより広義の社会環境価値単価（別資料の「社会環境価値単価テーブル」を参照のこと。）の設定を目指して、今後も客観的な意見を取り入れ検討していく。

例えば、エコファクチュアリングにより社会的・環境的な便益が市場並びに社会・環境に与える影響が存在する場合には、その定性的な情報を抽出する。この時、その定性的な情報から、環境経済学に限らず既知情報（GPI；Genuine Progress Indicatorの事例など）を活用して社会環境価値単価を算定する場合には、クラブエコファクチュア®の参加企業メンバーと適宜協議し設定することが望ましい。

ただし、同一のEEBE®算定手続において、理論的基礎の異なる複数の社会環境価値単価の設定方法が混在し、ステークホルダーの誤解を生むことを極力排除しなければならない。

6. EEBE®算定結果の表示

信頼性のあるEEBE®を算定するために、測定データから算定結果にいたる情報処理過程を整備し、トレーサビリティのある情報の収集と集計を実施し算定結果を表示する。

7. 情報開示の基準

EEBE®の算定者は、ステークホルダーからの誤解を生まないように、本算定ガイドラインに準拠して EEBE®を算定し開示しなければならない。

また、情報開示にあたっては、以下の各項の実施を必須とする。

評価対象のビジネス・プロセスがエコファクチュアリング・プロセスである根拠を示す。

レファレンス・プロセス設定の妥当性を示す。

EEBE®の算定期間と、設定したバウンダリーを示す。

評価対象のエコファクチュアリング・プロセスおよびレファレンス・プロセスから発生する負荷量データの信頼性の根拠を示す。

負荷項目ごとの単価設定の妥当性を示す。

エコファクチュアの定量情報として示せない社会環境価値についても、定性情報として可能な限り示す。

8. 透明性と信頼性の確保

EEBE®の算定にあたっては、もととなるデータは原則として測定値を用い、推定値を用いる場合は確実な根拠を示さなければならない。また、算定手続の信頼性を高める努力を継続的に行なわなければならない。

そのため、EEBE®の算定者は、算定結果の信頼性を確保するために必ず自己評価するとともに、重要な EEBE®値の外部公表の場合は、原則として算定手続ならびに算定結果について、独立した第三者との間で評価手続を予め合意し、その手続を実施することが望ましい。

EEBE®は、今後活用の局面が増加するとともに、多大な社会的効用が期待できるが、同時に、利用者において重大な誤解を生じる危険性をはらんでいる。

例えば、EEBE®の算定方法の違いにより、本来外部経済効果が低いプロセスが、相対的に外部経済効果が高いと判断され、また、その逆の場合もあり得る。

EEBE®の算定者は、常にその算定根拠を明確に示すとともに、ステークホルダーからのあらゆる批判に、誠意をもって応える姿勢を持続しなければならない。

以上

付表1 付属文書

No	付属文書名称	概要
1	EEBE®評価マトリックス	エコファクチュアリング・プロセスを縦軸に、評価対象の社会・環境側面を横軸にして、既存のエコファクチュアリング・プロセスの評価項目の対応関係をマトリックス表示した文書
2	事例集	クラブエコファクチュア®参加企業のエコファクチュアリングの事例を集めた文書
内部資料	社会環境価値単価設定ガイドライン	環境側面および社会側面について、社会環境価値単価を設定するための手順を記述した文書。一部、推奨する社会環境価値単価の数値例を含む。
内部資料	社会環境価値単価テーブル	環境側面および社会側面における社会環境価値単価の一覧

付表2 用語の定義

No	用語名称	定義
1	外部経済効果	外部経済効果とは、「環境経済学の理論において定義される外部費用」の削減効果である。事業活動の目的は、市場経済内部への経済効果を発生させることにより、事業活動の継続性を担保することであるが、EEBE®評価では、事業活動を通して外部経済効果（市場経済外部への経済効果）を発生させていくことが、21世紀の事業活動の継続性の条件であると考えられる。
2	エコファクチュア®	エコファクチュア®は、“Ecology”と”Manufacture”の合成語であり、大量生産・大量消費・大量廃棄型の20世紀の事業活動と決別した、社会・環境的価値の高い21世紀のあるべき事業活動の総称である。
3	EEBE®	EEBE®は、“External Economical Benefit Evaluation”の略称であり、事業活動の外部経済効果を測定することにより、エコファクチュアのレベルを貨幣単位で把握するものである。

No	用語名称	定義
4	ビジネス・プロセス	ビジネス・プロセスとは、企業等の事業活動の対象となるプロセスであり、製造活動のプロセス、ビジネスモデルのプロセス、プロジェクト活動のプロセス、製品・サービス提供のプロセス等がある。
5	エコファクチュアリング・プロセス	エコファクチュアリング・プロセスとは、ビジネス・プロセスと比べ、環境側面あるいは社会側面の負荷が著しく少なく、社会的便益を創出し得るビジネス・プロセスである。
6	レファレンス・プロセス	レファレンス・プロセスとは、EEBE®評価の対象とするビジネス・プロセスに対し、環境側面および社会側面の負荷量の基準とするビジネス・プロセスであり、通常のビジネス・プロセスの代替案から選定される。
7	社会環境価値単価	社会環境価値単価とは、エコファクチュアリング・プロセスによる、レファレンス・プロセスを基準とする負荷削減量に乘じ、外部経済効果を算出するための個々の負荷単位量あたりの評価金額である。環境経済学の理論に立脚して求める方法と、市場経済の領域におけるデータをもとに求める方法とがある。
8	バウンダリー	バウンダリーとは、EEBE®評価の対象とするビジネス・プロセスの空間的な範囲である。なお、EEBE®評価においては、空間的な範囲のほかに、時間的な範囲を決定する必要がある。